

大臣確認を行った拡散防止措置の実績

令和 8 年 2 月 2 0 日
文部科学省研究振興局
ライフサイエンス課
生命倫理・安全対策室

会合開催日時	議題、審議案件等	使用する遺伝子組換え生物等				大臣確認を要する主な理由 (二種省令別表第1)	拡散防止措置の区分	左記の拡散防止措置を執った理由
		宿主の名称及び実験分類	核酸供与体の名称及び実験分類	ベクター	遺伝子組換え生物の特性と使用の態様			
第 158 回委員会 (R7.5.27)	重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)とハートランドウイルス(HRTV)の一回感染性粒子の作製とワクチン効果の評価(東京大学) ※	Severe fever with thrombocytopenia syndrome virus、Heartland virus (クラス3) 大腸菌(クラス1)	Severe fever with thrombocytopenia syndrome virus、Heartland virus (クラス3) Encephalomyocarditis virus、Hepatitis C virus、Influenza virus (高病原性株を除く。)(クラス2) オワンクラゲ、トゲオキヒオドシエビ、ホタル、ウミシイタケ、海生カイアシ類、ヒト、イソギンチャクモドキ、アザミサンゴ、 <i>Rhodopseudomonas palustris</i> 、キッカサンゴ、トゲクボミコモンサンゴ、スナギンチャクサンゴ、サンゴイソギンチャク、サンゴ、ニホンウナギ、ナメクジウオ、 <i>Thosea asigna</i> virus (クラス1)	pRF 42、pPolIV、pCAGGS、pKS336、pTM1	大腸菌を用いて重症熱性血小板減少症候群ウイルスとハートランドウイルスの cDNA に変異やレポーター遺伝子等を導入したプラスミドを培養細胞に共導入し、一回感染性粒子を作出する。また、作出した一回感染性粒子を培養細胞や実験動物(マウス)に感染させる。	1-ハ 3-イ	P2 P2A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P2、P2A の拡散防止措置を執る。
		外来遺伝子を発現する遺伝子組換え鳥パラミ	Vaccinia virus (DIs 株及び)	Influenza virus の高病原性株(クラス3)	pCR-XL-TOPO、pCR-Blunt II -	大腸菌を用いて鳥パラミクソウイルス 2 型及	1-二 1-ヘ	P2 P3

	クソウイルス2、10型ワクチンの作製（農業・食品産業技術総合研究機構）※	LC16m8 株を除く。）、Avian paramyxovirus（クラス2） 大腸菌（クラス1）	Hepatitis D virus、 Avian paramyxovirus、 Influenza virus（高病原性株を除く。）（クラス2） T7バクテリオファージ、ニワトリ（クラス1）	TOPO、 pCAGGS.MCS、 pSL1180	び10型の全長ゲノムに鳥インフルエンザウイルスのHA、NA遺伝子またはニワトリ由来のサイトカイン遺伝子を導入したプラスミドを増幅させ、組換え鳥パラミクソウイルスを作出する。また、作出した各種組換え鳥パラミクソウイルスを発育鶏卵で増幅し、培養細胞や実験動物（鶏、発育鶏卵）に感染させる。	3-イ	P3A	の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮してP2、P3、P3Aの拡散防止措置を執る。
	表面糖蛋白質組換え水疱性口内炎ウイルスの作製と培養細胞における性状解析（京都大学）※	Vesicular stomatitis Indiana virus（クラス2） 大腸菌（クラス1）	（申請者の希望により非公表）	pCA7、 pcDNA3.1/Zeo	（申請者の希望により非公表）	1-イ 1-ロ 1-ヘ	P1 P2	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮してP1、P2の拡散防止措置を執る。
非公表2件								
第159回委員会 (R7.7.16)	組換えウエストナイルウイルスを用いた感染機構の解析（北海道大学）	West Nile virus（Kunjin virusを除く。）（クラス3） 昆虫フラビウイルス、大腸菌（クラス1）	West Nile virus（Kunjin virusを除く。）（クラス3） Hepatitis D virus、 Cytomegalovirus、 Porcine teschovirus（クラス2） 昆虫フラビウイルス、 T3ファージ、核多角体病ウイルス、オワンクラゲ、サンゴ、トゲオキヒオドシエビ（クラス1）	pMW119、 pMW119-CMV、 pCR2.1-TOPO、 pCXSN	ウエストナイルウイルス及び昆虫フラビウイルスのゲノムに変異やレポーター遺伝子等を導入したcDNAクローンをを用いて、組換えウエストナイルウイルス及び組換えキメラウイルスを作出する。また、作出した各種組換えウイルスを培養細胞や実験動物（蚊、マウス）に感染させる。	1-ハ 3-イ	P3 P3A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮してP3、P3Aの拡散防止措置を執る。
	重症熱性血小板減少症候群ウイルスに対する弱毒生ワクチンの開発（滋賀医科大学）	Severe fever with thrombocytopenia syndrome virus（クラス3） 大腸菌（クラス1）	Severe fever with thrombocytopenia syndrome virus（クラス3）	pCR2.1-TOPO、 pCR4-Blunt TOPO、pCAGGS、 pcDNA3.1、pRF42	他機関でSFTSVのゲノムに変異等を導入し作出された組換えSFTSVを滋賀医科大学に運搬し、組換えSFTSVを培養細胞や	1-ハ 3-イ	P3 P3A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等

					実験動物（カニクイザル）に感染させる。			の病原性・感染性等を考慮して P3、P3A の拡散防止措置を執る。
非公表1件								
第160回委員会 (R7.9.26)	レポーター発現ランピースキン病ウイルスを用いたウイルス増殖機構の解析（宮崎大学）	Lumpy skin disease virus（クラス3） 大腸菌（クラス1）	Lumpy skin disease virus（クラス3） Vaccinia virus（DIs株及びLC16m8株を除く。）（クラス2） ウシ、オワンクラゲ、Firefly、ブラックプリンスカイアシ、イソギンチャクモドキ、スナギンチャク、バクテリオファージP1（クラス1）	pBR322	LSDVのゲノムに変異やレポーター遺伝子等を導入したLSDVドナーベクターを用いて、組換えLSDVを作出する。また、作出した組換えLSDVを培養細胞に感染させる。	1-ハ	P3	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮してP3の拡散防止措置を執る。
	薬剤耐性遺伝子を導入した緑膿菌およびアシネトバクター属菌における薬剤耐性タンパク質の安定性に関する検討（藤田医科大学）	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> 、 <i>Acinetobacter baumannii</i> （クラス2） 大腸菌（クラス1）	<i>Escherichia coli</i> （腸管、尿路等における病原性を有する株に限る。）、 <i>Enterobacter cloacae</i> 、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> 、 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 、 <i>Acinetobacter baumannii</i> （クラス2）	pME6032、pKT230	大腸菌を用いて各菌株由来の薬剤耐性遺伝子等を導入したプラスミドを増幅させ、薬剤耐性遺伝子を導入した組換え緑膿菌及びアシネトバクターバウマニイを作出する。	1-ホ	P2	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮してP2の拡散防止措置を執る。
	ヒト感染受容体遺伝子導入マウスを用いたヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）感染症モデルの開発（その3）（国立健康危機管理研究機構）	マウス、大腸菌（クラス1）	Mammalian retrovirus（クラス2） マウス、ヒト（クラス1）	pBACe3.6(RPCI)	HTLV-1の感染受容体遺伝子（GLUT1及びNRP1）とHTLV-1由来遺伝子（Tax及びHBZ）を導入した組換えマウスを作成する。作成した組換えマウスに野生型HTLV-1を感染させる。	3-□	P2A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮してP2Aの拡散防止措置を執る。
非公表2件								
第161回委員会	外来遺伝子を発現するボルナ病ウイルス由来	Shrew Orthobornavirus	Shrew Orthobornavirus（ク	pBluescript SK(-)、pCAGGS	ネズミボルナウイルスに外来遺伝子やボルナ	1-イ 3-イ	P2 P3	宿主および核酸供与体

(R7.12.9)	ベクターの作製（第五期）（京都大学）	（クラス未分類） 大腸菌（クラス1）	ラス未分類） Borna disease virus、 Hepatitis D virus、 Herpes simplex virus 1（クラス2） ヒト、マウス、ラット、オワンクラゲ、ウミホタル、カイメン、大腸菌、カイアシ、ウミシイタケ、バクテリオフージ P1、 Tabacco Ringspot Virus、Archaeoglobus fulgidus（クラス1）		病ウイルスの相同遺伝子を導入したプラスミドを作成する。作出したプラスミド及びネズミボルナウイルスの遺伝子（N、P、M、G、L）を発現するヘルパープラスミドを培養細胞に共導入し、組換えネズミボルナウイルスを作成する。作出した組換えネズミボルナウイルスを培養細胞や実験動物（マウス、ラット、組換えマウス、組換えラット）に感染させる。		P3A	の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P2、P2A（施設の都合上 P3、P3A）の拡散防止措置を執る。
	バキュロウイルスを用いたポリオウイルス弱毒生ワクチン開発の基盤構築（大阪大学）	Enterovirus C（クラス2） マウス、大腸菌、 Baculovirus（クラス1）	Enterovirus C、 Hepatitis D virus、 Cytomegalovirus（クラス2） オワンクラゲ、トゲオキヒオドシエビ、ヒト、Baculovirus、ウシ、ニワトリ、ウサギ（クラス1）	pFastBac1	ポリオウイルス感染受容体（CD155）を発現する組換えマウスを作成する。バキュロウイルスにポリオウイルスのゲノムを導入した組換えバキュロウイルスを作成する。作出した組換えバキュロウイルスを培養細胞や実験動物（マウス）に感染させる。感染時に、組換えバキュロウイルスから組換えポリオウイルスが産生される。	3-口	P2A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P2A の拡散防止措置を執る。
非公表 2 件								
第 162 回委員会 (R8.2.6)	遺伝子相同組換えを用いて樹立した豚熱ウイルス新規マーカーワクチン候補株の有効性評価（農業・食品産業技術総合研究機構）	Classical swine fever virus（GPE 株）、大腸菌（クラス1）	Phocoena pestivirus（クラス未分類） Classical swine fever virus（GPE 株）（クラス1）	pACYC177	豚熱ウイルス承認生ワクチン株 GPE 株の E ^{rns} 遺伝子領域をネズミイルカペスチウイルスの E ^{rns} 遺伝子領域に置換した組換え豚熱ウイルスを作成する。作出した組換え豚熱ウイルスを培養細胞や実験動物（ブタ）に感染させる。	1-イ 3-イ	P2、 P2A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P2、P2A の拡散防止措置を執る。

	<p>組換え野兔病菌を用いた病原遺伝子同定とワクチン効果確認試験（その5）（国立健康危機管理研究機構）</p>	<p><i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>tularensis</i> (B38 株を除く。)、 <i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>holarctica</i> (LVS 株を除く。) (クラス3) 大腸菌 (クラス1)</p>	<p><i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>tularensis</i> (B38 株を除く。)、 <i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>holarctica</i> (LVS 株を除く。)、 <i>Mycobacterium tuberculosis</i> (クラス3) <i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>novicida</i>、 <i>Streptococcus pyogenes</i> (クラス2) <i>Lactococcus lactis</i>、大腸菌、オワンクラゲ、イソギンチャクモドキ (クラス1)</p>	<p>pKEK1140、pFRSU、pNVU1、pOM5、pNVU4、pEdit-Ft</p>	<p>野兔病菌の遺伝子破壊株、相補株及び遺伝子過剰発現株を作出する。作出した各組換え野兔病菌を培養細胞や実験動物（マウス、カンクイザル）に感染させる。また、遺伝子破壊株を接種した実験動物に対して非組換え野兔病菌を感染させる。</p>	<p>1-ハ 3-イ</p>	<p>P3、P3A</p>	<p>宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P3、P3A の拡散防止措置を執る。</p>
	<p>ニパウイルス及びヘンドラウイルス F/G 遺伝子導入シダーウイルスの Reverse genetics の確立と組換えウイルスの培養細胞及び動物への接種（国立健康危機管理研究機構）</p>	<p>Cedar virus (クラス2) 大腸菌 (クラス1)</p>	<p>Nipah virus、Hendra virus (クラス4) Foot-and-mouth disease virus (クラス3) Cedar virus、Porcine teschovirus、Equine rhinitis A virus、Cardiovirus、Influenza virus (高病原性株 (Highly pathogenic avian influenza virus を含む。) を除く。)、 Simian virus 5、Vesicular stomatitis Indiana virus、Hepatitis D virus、Cytomegalovirus、Polyomavirus (クラス2) Thosea asigna virus、ヒト、トゲオキヒオドシエビ、海生カイアシ類、ホタル、ウミシイタケ、オワンクラゲ、タマクラゲ、イソギンチャクモドキ、サンゴイソギンチャク、トゲクボミコモンサンゴ、</p>	<p>pCAGGS-MCS、pcDNA3.1、pEF-BOS-EX、pKS336、pTM1、pGEM-T Easy、pCI、pBR322、pBBR122、pCR2.1-TOPO、pCR-Blunt II-TOPO、pCR4-Blunt-TOPO、pATX-MCS4、pATX-MCS5、p15A-MCS、p15A-Kan、pACYC177、pPol I、pPol IV、pRF42、pHH21</p>	<p>シダーウイルスの F 遺伝子、G 遺伝子の領域をニパウイルス、ヘンドラウイルスの F 遺伝子及び G 遺伝子に置換した組換えシダーウイルスを作出する。作出した組換えシダーウイルスを培養細胞や実験動物（マウス、ウサギ、ハムスター、モルモット）に感染させる。</p>	<p>1-ロ 3-イ</p>	<p>P2、P3、P3A</p>	<p>宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P2、P2A (施設の都合上 P3、P3A) の拡散防止措置を執る。</p>

			スナギンチャクサンゴ、ナメクジウオ、 <i>Rhodopseudomonas palustris</i> 、ニフトリ、Tobacco ringspot virus、腸内細菌ファージT7、マウス（クラス1）					
変異型 HTLV-1 を使用した in vitro/vivo 感染および HTLV-1 マウスモデル作製実験（熊本大学）	Mammalian retrovirus（クラス2） マウス、大腸菌（クラス1）	Mammalian retrovirus、Hepatitis D virus、Cytomegalovirus、Cardiovirus、Porcine teschovirus（クラス2） ヒト（クラス1）	pUC19、mCD4e/pSal-(hCD2)	HTLV-1 感染受容体（GLUT-1 及び NRP1）を発現する組換えマウスを作成する。HTLV-1 全長ゲノムに変異を導入した組換え HTLV-1 を作出する。作出した組換え HTLV-1 を培養細胞に感染させ、野生型及び組換え HTLV-1 を作成した組換えマウスに感染させる。	1-ヘ 3-イ 3-ロ	P3、 P3A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P3、P3A の拡散防止措置を執る。	
外来ウイルス表面糖蛋白質遺伝子を発現する水疱性口内炎ウイルスの使用（4）（北海道大学）	Vesicular stomatitis Indiana virus（クラス2）	Dehong virus、Tapajós virus、Loetschberg virus、Ekpoma virus 1、Ekpoma virus 2、Mundri virus（クラス未分類） Zaire ebolavirus、Sudan ebolavirus、Tai Forest ebolavirus、Bundibugyo ebolavirus、Reston ebolavirus、Bombali ebolavirus、Marburg marburgvirus、Lloviu cuevavirus、Dianlo virus、Wenling frogfish filovirus、Wenling thamnacinus septentrionalis filovirus、Lassa virus、Lujo virus（クラス4） Bas-Congo tibrovirus	pATX、p15A-T7tZeo、pCAGGS	VSV の増殖に必須な G 蛋白質遺伝子を欠損させ、フィロウイルス、ラブドウイルス、アレナウイルスの表面糖蛋白質遺伝子あるいはレポーター遺伝子を組み込んだ組換え VSV を作出する。作出した組換え VSV を培養細胞及び実験動物（ハムスター、マウス、ラット、モルモット）に感染させる。	1-イ 1-ロ 3-イ	P2、 P3、 P2A、 P3A	宿主および核酸供与体の実験分類や作出された遺伝子組換え生物等の病原性・感染性等を考慮して P2、P2A の拡散防止措置を執る。P2 実験室が使用できない場合は、P3、P3A の拡散防止措置を執る場合がある。	

			(クラス3) Vesicular stomatitis Indiana virus、 Tibrogargan virus (ク ラス2) イソギンチャクモド キ、オワンクラゲ、T7 ファージ (クラス1)					
--	--	--	---	--	--	--	--	--

※ 令和7年3月21日に研究二種省令及び研究二種告示を改正した。※のついた事項は、改正附則に基づく経過措置（令和7年6月30日まで）により、改正前の省令及び告示に沿って申請・確認されたものであることに留意。